

しいのき



梅花遊禽図 小杉放庵(山崎家資料)

中野に風雅あり

名誉館長 三 隅 治 雄

江戸の町人文化全盛の文化文政時代、その町人たちが、「おらア江戸っ子だ」と妙に粋がって、江戸周辺の農村の居住者とのライフスタイルの違いを強調し、農村のそれを「無粋」だの「野暮」だのと評したりしたことがありました。当時、江戸では近郊農村を「在」とか「田舎」と呼びましたが、しかし、その田舎にも、江戸に負けぬ風雅の生活文化が馥郁と匂っていたことは、たとえば、かつて江古田村丸山組の庄屋であった当館用地提供者の山崎家所蔵の生活用品や美術工芸品の数々を見ても、察することができます。喜兵衛を名乗る歴代の当主の蒐集品のいずれを見ても、なまじの町方の商人など足元に及ばぬ審美眼と風流心が、偲ばれます。中野に風雅ありを実感させてくれる、山崎家の遺品のかずかずです。

文化財よもやま話

月の満ち欠け

「満月には出産が多い」など月にまつわる言い伝えは数多くあります。迷信として片づけられていたそれらの伝承について、最近では科学的な根拠を持つものであるとの解釈がなされているようです。つまり月の満ち欠けなどの天体のサイクルは人間の行動や感情、ひいては生体リズムに影響を与えているのだそうです。多くの伝承が伝えられ、また信じられてきたことが、もはや迷信の一言で片づけることはできないとするこのような研究の背景にあったことは間違いありません。

月は現在の私たちが実感する以上に生活とかわりを持っていました。その一つの例として暦があげられるでしょう。今私たちが用いている暦は太陽の運行に依拠するもので、これを太陽暦といいます。これが採用されたのは明治6年1月1日（旧暦明治5年12月6日）のことで、それ以前は太陰太陽暦が用いられていました。太陰太陽暦では月の満ち欠けの周期を一月としています。これでは太陽の運行との間にズレが生じるため、二三年に一度閏年を設け調節します。いわば太陰暦と太陽暦との折衷というわけですが、空に月を望むことは人々の生活の一部であったことでしょう。

元来一年の境というものは、今のように一日ではなく、十五日つまり満月の日ではなかったかと考えられています。正月一日を「大正月」、十五日を「小正月」と呼ぶ地域の多いことは知られていますが、これは暦が制定されて後、むかしからの満月の正月を「小正月」と呼んだのだと考えられています。小正月のほかにも、満月の日の行事はさまざまあります。6月15日に祇園祭を行う地域は多いですが、また水神祭りの行われる日でもありました。7月には盆があり、8月は十五夜です。さらに満月の日だけではなく、月が半分欠ける上弦・下弦の日にもいろいろな行事が各地で行われてきました。

月の満ち欠けによって日を知り、行事を行ってきた人々にとって、天空に浮かぶ月の光はどのように感じられたことでしょうか。新年を迎えるにあたって一度月を眺めてみてはいかがでしょうか。

大地に眠る歴史

発掘調査はどうやるか？

近年、毎日のように遺跡の発見が報じられるように、日本中どこかで発掘調査が行われています。

どうして、こんなに多くの発掘が行われているのでしょうか。それは、開発がいかに行われているのかということに比例しています。

ビルを建てたりする時に事前に調査することを緊急調査といい、そうでない場合を学術調査と呼びますが、現状では99%が緊急調査です。

さて、遺跡の調査ですが、まず最初に発掘する範囲や必要性を判断するために、調査予定範囲の一部に溝（トレンチ）を何か所か掘ります（確認調査）。その結果、遺構（住居跡や古墳など人が土地にはたらきかけてつくられたもの）や遺物（土器・石器など）が発見されると、本調査に入ります。

本調査は確認調査の時にあらかじめ遺構や遺物が発見される層位がわかっていますので、その面まで重機を使って土を取り除きます。



これからが、人の仕事になります。写真で示しました右の人物は住居跡の窪みの土を移植ゴテ（シャベル）で取り除いています。手前の箱には出土した小さな土器片を入れています。人物の右には大きな土器片を出土した状態そのままにしています。中央の人物は、土坑の清掃を丹念にしています。左の人物は、削った土をジョレン（鍬に似た道具）で箕（チリトリの大きいもの）に入れていくところ。（つづく）

古文書つづり

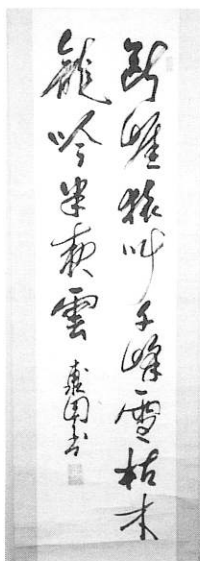
読める？読めない？芸術書

そんなことより感じよう

ある時「古文書って何？」と聞かれました。忙しさにかまけて「和紙に筆と墨で書いたものとも考えて」などをつい答えてしまいました。「なら読めるね」と渡されましたのがこの掛軸です。

正直に申しまして芸術書は全く判りませんが、まるで読めないというのも古文書担当として許されません。幸いにして漢字のうえ簡単なくずし方でしたので、内心は四苦八苦しつつ何とか読んでその場をとりつくろえました。しかしこれが僧侶の書いた仏教語ならほとんどお手上げですし、書家のかな書では全面降参していたところです。

泣言はやめて実際に書を見てみましょう。猿がでてきて奇異に思われるかもしれませんが、中国文化／文学において猿は重要な題材であることを考えますと別段不思議でもなくなります。作者は中国文化にも造詣が深かったようですが、ここに



断崖猿叫千峰雪枯木
龍吟半夜雲 甫水円了書



◎設問・どう読めば
よいでしょつか。

もそれが見え隠れするとはいい過ぎでしょうか。枯淡・清澄、しかしながら堅牢な印象を私はうけました。あなたはこの書にどういった印象をもち、作者がどのような人柄だったと思いますか？

甫水円了とは井上円了。哲学堂公園や現・東洋大学を創立した哲学者・教育者。(1858～1919)

学を学びました。帰国後上書して、寮中に初めて水産掛を置き、初代の水産伝習所の長官となり、技術者の養成にも貢献しました。さらに日光中禅寺湖に鱒等を養殖することを建議し、米国にならって、人工孵化法を行い、技術の普及に努めました。

明治二十五年、官を辞してからは、水産業に従事し、西洋式の方法で捕鯨を行って、成功を納めました。

明治三十年、病のため五十五才で亡くなり、中野村本郷に住んでいたため、成願寺に葬られました。



中野往来

関沢明清の墓

本町2-26-6 成願寺墓域内

関沢明清は、明治時代に欧米の水産技術を日本に導入し、近代水産技術の向上に力を尽くした人物です。

明清は、幕末の加賀前田藩藩士、関沢明房の第二子として天保十四（1843）年に生まれました。江川太郎左衛門、村田蔵六に師事し、蘭学を学び、航海術を修めました。

21才のとき、藩の軍艦運用方頭取となり、藩命で、英国に留学、明治元年に帰国しました。その後、同藩の遠藤直方等と摂津兵庫に製鉄所を始めましたが、廃藩置県の後、前田慶寧侯に従って、再び英国に赴きました。明治五年には正院六等出仕となり、澳国博覧会事務官として澳国（オーストラリア）に赴き、水産部をみて大いに啓発されました。これが、水産行政及び、事業に尽力する素因となりました。明治七年、勸業寮に転じ、米國博覧会事務官として赴き、専門業者について、水産

事業報告

各種事業経過

1997年10月～12月

事業名	内 容	期 間
特別企画展	「地域に伝わる 土器 磁器 陶器」	10/1～11/23
企 画 展	「写真でみる 中野区内 仏像・神社石造物展」	12/10～1/15
ミニ展	「西の市と熊手展」	11/1～30
古文書講座	「入門コース」講師：大友一雄氏(国文学研究資料館国立史料館助教授) 笠原 綾氏(学習院大学大学院) 太田尚宏氏(北区行政資料室)	10/4～11/22
史跡めぐり	「江古田・沼袋コース」講師：工藤敏久氏(日本考古学協会会員)	11/9
文化財調査	新井・上高田地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財 調 査	御嶽遺跡第二次調査報告書刊行作業	継続中
	旧国立療養所中野病院跡地遺跡調査	継続中
	江古田遺跡(ベタニアホーム地区)確認調査 本調査	8/26～29 10/21～
	江原町一丁目民有地立会調査	8/9
	江古田三丁目都営住宅確認調査	8/8～16
	弥生町一丁目民有地確認調査	8/23
	南台一丁目民有地立会調査	9/19
	本町四丁目民有地立会調査	10/15
	江原町一丁目民有地確認調査	10/18
	江原町二丁目民有地確認調査 本町二丁目民有地立会調査	10/25 11/12・18

寄贈資料一覧

敬称略・受入順

資 料 名	点 数	氏 名
羽子板	2	小林 光江
五月人形	5	小田川 顕
かご(仕出し運搬用)	1	深野徳五郎
真空管ラジオ・羅針盤 他	8	岸 銀太郎
扇風機・時計 他	10	桜井 秀子
軍隊帽子	1	横川 夏子
五月人形	2	吉田 良子
都電看板	1	武本 昌夫

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

入館状況

1997年9月～11月(延71日間) (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
6,350	73	813	7,236



発行年月日 1998年1月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号9中教社第7号)